

2019年8月の望遠鏡観測の結果を(表-1)に示します。寺迫氏から観測報告がありました。

観測者	観測地 Locality	夜数 Night	時間 Time	流星数 Meteor			備考 Remarks
				Plot	S' n	Total	
Observer							
寺迫 正典 (Terasako Masanori)	静岡県浜松市北区 (Hamamatsu shizuoka-pref)	3	165	16	32	48	25cm×51 1.6° L.T. 15cm×25 2.7°Bino. 10cm×28 2.5°Bino.
2019年8月計		3	165	16	32	48	HR 17.5

(表-1) 2019年8月望遠鏡観測結果

Table 1 Summary of the Telescopic Meteor observations in August, 2019

● 出現数変化

2019年8月の出現数変化を(表-2)に紹介します。

UT																			
日	開始	JST	終了	JST	分	中央時	観測方向 (Direction)	Plot	Seen	Total	HR	Mag	See	CI	観測者 (Observer)				
4	26	37	27	37	60	4.755	And,Tri,Ari,Per,Tau,Ori	-	24	24	24.0	12.5	G		寺迫 (Terasako.M)				
4	27	40	28	10	30	4.788	Ori,Tau,Mon	-	2	2	4.0	11.0	rG		寺迫 (Terasako.M)				
12	27	0	28	0	60	12.771	γPer RP	16	-	16	16.0	11.5	G		寺迫 (Terasako.M)				
26	26	28	26	43	15	26.733	And,Cas,Cep	-	6	6	24.0	12.0	rG		寺迫 (Terasako.M)				
3 Night					165	Min.		16	32	48	17.5								

(表-2) 2019年8月の望遠鏡流星の出現数変化

Table 2 Telescopic Meteors Observational data in August, 2019

● 光度分布

2019年8月の望遠鏡流星の光度分布は、(表-3)に示すとおりです。

	-5.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	L-Mag	Total	Avg Mag.
寺迫 (Terasako.M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	5	24	15		11.0 - 12.5	48	10.96
<b>Total</b>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	5	24	15	0		48	10.96

(表-3) 2019年8月の望遠鏡流星の光度分布

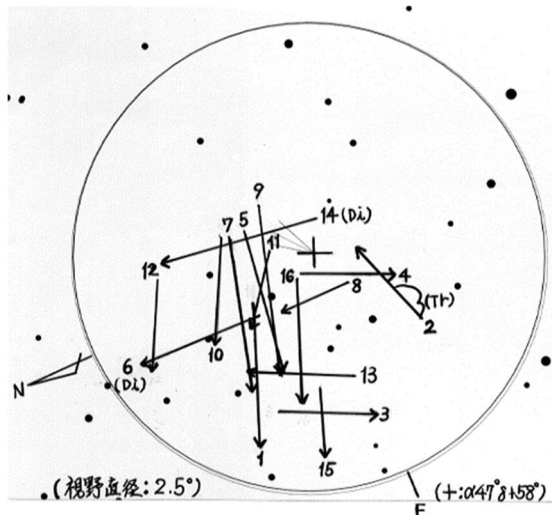
Table 3 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in August, 2019

Date(UT)	6.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	L-Mag	Total	Avg Mag.
4.755		1		2	9	12	12.5	24	11.29
4.788			2				11.0	2	9.00
12.771	1			2	13		11.5	16	10.56
26.733				1	2	3	12.0	6	11.33
<b>Total</b>	1	1	2	5	24	15		48	10.96

(表-4) 2019年8月の望遠鏡流星の各夜の光度分布(寺迫氏)

Table 4 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in August,2019(Terasako)

寺迫氏から、8月の観測についてのコメントが寄せられていますので、以下に紹介します。



今月は通常の自称「ゼニス・クロス」の観測と合わせ、 $\gamma Per$  群輻射点付近の記録観測をおこないました。相変わらず流れ雲の多い中、奇しくも、最近購入した10cm双眼鏡の記念すべきファーストライトとなりました。月が沈んだ午前3時より1時間おこない、16個の流星を観測できました。

(28×、2.5°)の視野の中心を、別図の+印( $\alpha 47^\circ \delta +58^\circ$ )に向け、観測しました。16個のうち半数は東方向に流れてゆき、何れも11等級の暗いものばかりでした。最も圧巻だったのは、2番の6等級のもので、1秒間ほどの短痕でしたが、痕の形状が短時間のうちに大きく変化した事でした。全く個人的な感想ではありますが、15cm

双眼（ $25 \times 2.7^\circ$ ）を天頂に向けての、固定観測した時に、最微光星 11.5 等級の時 HR 16.0（ $m: 10 \times 1, m: 11 \times 15$ ）、最微光星が 12 等の時（ $m: 6 \times 1, m: 10 \times 4, m: 11 \times 11, m: 12 \times 10$ ）という記録があります。

口径差はありますが、最微光星、や視野直径ではほぼ同じで、プロットする時間、雲の視野通過時間等併せて、 $m: 12$  等級の流星を差し引いて考えると、今までの自称ゼニス・クロス観測の 10 等級以下の微光流星の出現を併せて考えると、通常の出現と大差はありません。また、輻射点を含

む  $2.5^\circ$  ほどの視野に出現した 10 等級、11 等級のものが果たして  $\gamma$  Per 群のものであるかどうか甚だ疑問です。またまた、新たな課題が浮かんできました。今後、他群の状況や同群の継続した観測が必要かと考えます。

### ● 幹事から

寺迫氏からの興味深い観測報告に、幹事も刺激を受けています。しかし天気にも恵まれていないために実行に移せない状況です。それでも永年望遠鏡観測部門報告をまとめていましたが、先日大阪の藤原康徳氏から、寺迫氏の観測に興味を持っていただき、私を通して寺迫氏に質問がありました。すでに寺迫氏からの返信もいただき、寺迫氏の観測で微光流星が多く捉えられている理由について、来月以降紹介することができるように私の方でまとめています。その中で私の観測方法についても紹介したいと思いますが、その一部を以下に紹介します。

私も、1974年9月から双眼鏡観測をしています。最近は無沙汰ですが、観測をされたことがない方にとっては、眼視観測以上に流星を観測すると、「狭い視野の中でそんなに流星を捉えられるの?」とか、「スピードが速くて、捉えられるの?」など、疑問を寄せられました。詳しくは寺迫氏の返信と合わせて紹介しますが、放射点付近の暗い流星の角速度は、眼視と変わりません。埼玉県正丸峠で、○東の観測会で、眼視観測で停止流星と判定された3月のヘビ群流星を双眼鏡では短経路の流星と捉えています。光度も、眼視で4等。双眼鏡でも同じ等級と判定しています。もう40年以上前ですが。。。また、同時に2個のしし群流星の出現や、放射点に出現した停止流星の周りに、渦を巻いた痕が残ったり、2003年のアメリカ・ツーソンでは貴重な観測をしました。すべて、永年のご褒美と思っています。この宇宙で、私だけが遭遇した現象ですから。。。

来月の天文回報で紹介できるように準備しています。

(2019年9月26日記)